

5

東京都武蔵野市

武蔵野市立大野田小学校

- クラス数／24 クラス
- 児童数／618 名
- 建築主／武蔵野市
- 所在地／武蔵野市吉祥寺北町 4-11-37
- 敷地面積／15,051.77㎡
- 建築面積／4,687.49㎡
- 延床面積／13,508.07㎡（体育館 1,267.95㎡）
- 構造・規模／RC 造、SRC 造、S 造
地上 5 階地下 1 階建
- 施工期間／2003 年 10 月～2005 年 3 月
- ※クラス・児童の数値は平成 22 年 3 月末現在

多様な学習空間を構築。 環境教育に力を入れた設備配置。

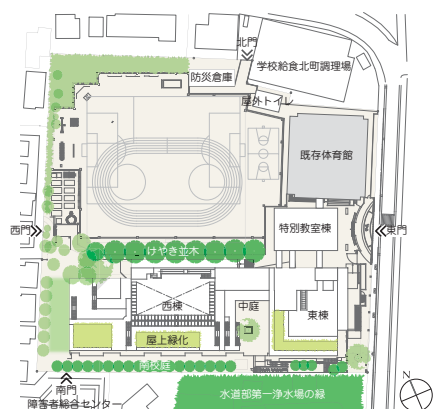
低学年と中高学年の特性に合わせたスペースのしつらえ。多目的階段教室や多目的ホールで多様な学習に対応。環境教育と理数教育を考えた施設づくり。



既存けやき並木に沿って配置された校舎

計画に見られる 指針改訂のポイント

1. 多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供
2. 環境面からの持続可能性への配慮
3. 理数教育環境の充実



■配置図



■1 階平面図

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 「学年ごとに異なる次世代オープンスペース型教室の導入」



1 学年ごとに異なる特徴のある多目的スペース(オープンスペース)(1年)



2 学習室



3 多目的ホール



4 多目的階段教室「けやきホール」

校長の視点から

学年の違いに配慮した スペースづくり

小学生は、各学年で行動や身体サイズ、学習環境が大きく違ってきます。本校では、各学年ゾーンに配置されるオープンスペースの特性を変えています。低学年では、各学級内で機能が完結するオールインワン型、中高学年では変化のある連続したオープンスペース型としています。これによって、それぞれの学年の教育内容に対応するとともに、児童は進級する

歓びを味わえるようにしています。また、児童が日中の大半の時間を過ごす生活空間であることを考え、色彩豊かなインテリアとあたたかみのある木製の床や壁を採用しています。そして、この空間に合った家具計画として、児童の意欲を喚起するような家具も用意されました。複合した組合せや使い勝手によって、児童は使い方を発見する楽しさを体験しています。(写真1～3)

児童の活動を地域発信する 「けやきホール」

本校では、地域との連携に配慮して敷地東側に教育支援センター、地域子ども館、大野田こどもクラブを配置し、アプローチを確保しています。また特別教室棟を東側に置き、特に、児童の日常的な発表の場となる多目的階段教室「けやきホール」を東側道路に面して配置することによって、児童の活動や学校の雰囲気を外部に伝えるようにしています。(写真4)

環境面からの持続可能性への配慮
環境共生への関心を高める施設づくり



5 自然体験ができるビオトープ



6 半透過型の太陽光パネルを採用した庇



7 4学年普通教室から続く屋上緑化テラス



8 自然換気と床下に埋設した冷水管パイプで冷房効果を高める

教職員の視点から

環境配慮への
関心を高める多彩な施設

ビオトープや屋上緑化、自然換気を利用した施設など児童が自然とふれ合う環境がちりばめられ、環境への配慮を児童が身近な問題として意識できるようにしています。例えば、プールサイドと屋上緑化テラスの庇部分に太陽光発電設備が設置されているので、児童たちは電力の消費や発電の仕組みなどを理解し、関心を持つことができます。(写真5～7、図8)

コンピュータ室との連携で
さらに使い勝手が高まる図書室

大型本書を備えた図書室には、読書・調べ学習スペースと読み聞かせスペースがあり、児童の使い勝手がよくなっています。また、図書室のデータベースを隣のコンピュータ室と関連づけ、メディアセンターとして機能させることも可能です。児童の学習とともに教員の研究環境も充実することを期待しています。(写真9～11)

集まって先生の実験を見学する
ことで学習効果が向上

理科教室2室と準備室の他にオープンスペースがあります。中央が空いた理科教室では、集中して見たり、話し合ったりできるので、学習効果が高まります。また、可搬家具は、さまざまな場所での機動的な実験を可能にし、実験の楽しさを高めてくれます。さらに、天井に組み込まれたプラネタリウムは、理科好き・宇宙好きの科学する心を育てています。(写真12、13)

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供 └ コンピュータ室と連携した図書室



9 読書や調べ学習を行う図書室の調べ学習スペース



10 図書室に隣接し、一体利用もできるコンピュータ室



11 図書室内部に円形の読み聞かせスペースを配置

理数教育環境の充実 └ 充実した観察・実験のための理科教室の計画



12 中央を空け、実験が見やすいよう配慮した理科教室



13 ブラネタリウムを備えた理科のオープンスペース

〈設計者の視点から〉

- ◎武蔵野の緑に包み込まれる心地よい環境を目指しています。
地域と共にある学校として、周辺の日影に配慮しけやき並木の南側に校舎を配置。教室から南側の豊かな緑を感じられます。(外観写真)
- ◎教室は半袖半ズボンで過ごす児童を冷やし過ぎない、木陰のような涼しさを目指した床涼温房を採用しています。(図8)
- ◎休み時間や移動時に、けやきの中庭やビオトープ、屋上緑化など、身近な自然で季節感を感じられます。(写真5、7)

(設計/日本設計)

検討委員会委員の視点から

多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供の観点から

低学年は各学級内で機能が完結するような空間を構成、中高学年では変化のある連続したオープンスペースとするなど、発達段階に応じた計画となっている。また、家具についても、発達段階に応じ、大きさや材質等を選択するなど配慮されている。

環境面からの持続可能性への配慮の観点から

ビオトープや屋上緑化テラスを整備するなど、児童が身近に自然と触れ合える空間を確保している。また、児童が日常的に利用する空間には、極力木材を利用したり、児童が目につきやすい部分に太陽光パネルを設置するなど、児童が身近に環境を感じ、環境との共生について関心が高まるような計画となっている。